

平成12年
丹後広域消防組合

広報



たんごの園

No.3

—「安心」を支える消防をめざして—

冬号



息を合わせてよいしょ！

毎年秋に開催される久美浜町の“まるかじり祭り”に、今回も久美浜分署が参加しました（平成11年11月14日）。

今回の目玉は職員による餅つき大会。消防署のテント前には大勢のみなさんの列ができ、電気火災実験や消火実験などを、にぎやかなうちに実施することができました。

なお、網野分署がふるさとジャンジャン祭（11月14日）に、竹野川分遣所が丹後町産業祭（11月21日）にそれぞれ参加し、開催した消防フェアーも大盛況でした。

火事・救急・救助

▼
局番なしの119へ
(携帯電話でも同じです)

火災発生件数過去最少！！



▲昨年の火災発生件数は最少の12件でした

まんはののる後 まのに ずな く現と 日本にはもちろん世界中が緊張すとど被始よのこり火 とに災こに推進のもとにはも う様れま災去こは害すと。二〇〇〇年も、張
「一う害まう様りで々らし・りろいがましとこに迎えられた二〇〇〇年も、張
緒すをりで々らし・りろいがましとこに迎えられた二〇〇〇年も、張
にれ最にすなのた。救行で々らし・りろいがましとこに迎えられた二〇〇〇年も、張
考ば小際。社数 急く新れこにまします。立つた二〇〇〇年も、張
えよ限し新会字 一しませんなの丹後でも大き
ていて年状を 救九九年の状九の後でも大き
みのくの況眺 状年到がの来とがの管内と
たかいかにこ新がめ がま来て願わき
い止れし見ると みめらいえと、と
思なる災生て いさに害活く丹

平成11年

丹後の

火災・救急・救助

救助出動

救急出場

▼迅速な救助技術の向上を目指して



お年寄りの急病増加
半数以上は交通事故現場



◀救命技術の向上を目指して
署内救急技術研究会を実施

たんごの風

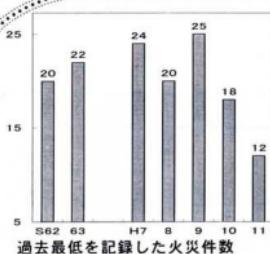
救急
出場回数 1日平均 5回
救急件数は 1, 778 件
搬送人員は 1, 771 人で
救急種別は 急病 993 件、

火災件数は12件で内訳は
建物火災10件、林野火災1
件、車両火災1件でした。
出火原因としては、鍋をコ
ンロにかけたままその場を
離れる。乾かそうとした洗
濯物がストーブの上に落ち
るなど、ウツカリや不適切
な取り扱いがほとんどです。
昨年と比較すると6件減
少し、消防本部発足以来最
少件数となりましたが、こ
のウツカリを撲滅し、今年
はさらに最少をめざして頑
張りましょう。

火災件数
12件
損害額
7,168万円

出勤件数43件、うち活動件数は23件です。種別は交通事故15件、水難事故2件、その他6件です。交通事故内容は、単独または出会い頭の衝突によつて車内に閉じ込められた人の救助が多く、軽貨物自動車など、ボンネットのない車が閉じ込められやすいようです。

救助
出動件数
43件
救助人員
26人



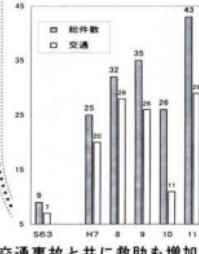
防火意識の高まりか

昨年の火災件数に占める
建物火災は 83 % となつてお
り、過去 13 年間の平均でも
75 %。

そのためには、私たちも、消防器等による初期消火、適切な119通報などについて、さらに積極的な講習会をみなさんへ働きかけなければと思ひます。みなさんと共に手を携えて。

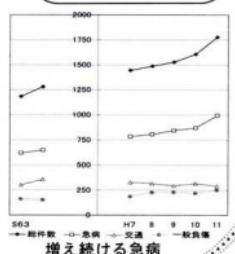
増えつづける救急出場

救助出動は、交通事故によるものがほぼ毎年70%以上を占め、ついで13%の火難事故となっています。



身動きも、車外へ出ることもできなくなつたための救助がほとんどで、漏れ出る燃料の引火に注意しながら救助活動をしなければならない場合も増えています。

過去最高の救助出動



過去5年間の火災・
救急・救助の推移か
ら、丹後の社会状況と
将来を眺めることができるかも知れませ
ん。



▲溶けてしまったアルミ鍋

昨年の火災件数は、12件中10件が建物の火災でした。

その中に、お湯を沸かすためガスコンロにアルミ鍋をかけたまま外し、空だき状態となって、長時間熱せられた鍋が溶けだし、溶けたアルミがさらにガスのゴムホースを溶かしてしまい、そこから漏れたガスに火がつき燃え拡がるという火災がありました。

このように殆どの火災はちょっとした不注意から思わぬ形で起こるもの。

そして火災はちょっとした注意で防ぐことができるものです。空気が乾燥する時期です。火の元には注意して下さい。



溶けたアルミ鍋火災

こんな事が
あんな事で？

緊急報告

ここでは昨年に起きた事例の中から、特に目に留まったものをとりあげ紹介したいと思います。みなさんにも思いあたることがあるかもしれません。

この事例を教訓とし、身の回りを確かめてみて下さい。



力を合わせてさあ避難!
いちごお園 消防訓練(11月11日 丹後町)



地震だ!みんなおちつい。パパと一緒に起震車体験
丹後町産業祭で消防フェア(11月21日 丹後町)



先生がんばって!!
間人小学校消防訓練(11月17日 丹後町)



おばあちゃん上手です!!
新町区文化祭で移動防火相談所(11月14日 峰山町)

ji TANCO

たんごの風



▲いろいろな危険が待ち受けています

インザキ・ビングシ・トモガハナいすれも釣りをする方なら知っている丹後町の釣りのポイントです。この中のインザキ(犬が岬)で昨年12月、水を汲もうとした釣人が高波にさらわれ、沖合に100メートル程流されてしまい、近くのサーファーに救助される事例がありました。波にさらわれてから約1時間後の救助でしたが、もう少し遅れていれば……。

毎年のように寒い時期の海岸での事故が絶えません。魚釣り、海苔み等される場合、波にさらわなようすることは勿論、さらわれても溺れない服装など自分の命を守る工夫をして下さい。



救助

サーファーと救助



▲様々な健康作りが進んでいるのですが‥‥

この事例は昨年暮れのボカボカ陽気の日、80歳代の男性が散歩中、突然吹きつけた風があおられ、段差のある溝蓋に足をとられて転倒したもので、幸いけがは額のコブと膝の擦り傷のみで、意識もしっかりとしていたため家族に連絡をとることができました。

しかし、頭部の強打やショックで意識がない場合は、家族への連絡も本人の特定も不可能となります。健康に散歩は一番ですが、この事例のように思わぬことが原因で事故につながることがあります。特に年寄りの場合は、自分の住所・氏名や持病の有無など、必要事項を記入したものを持ち歩くなどの工夫も大切です。

救急

散歩と身分証明



みんなとってもおりこうさん
浅茂川保育所の防火教室(10月29日 網野町)



1月7日と9日、各町消防団の出初式が行われました
出初式での分列行進(1月9日 弥栄町消防団)



整理整頓が行き届いていました
一人暮らしのお年寄り防火訪問(11月12日 大宮町)



目ざせチップコレスキュー隊!
新山小1年生の職場訪問(11月20日 峰山町)

去年は
こんなことも行いました。

- 1月・消防団との合同訓練
 - 3月・高齢者世帯防火訪問
 - ・消防団との合同訓練
 - ・移動防火相談所
 - 5月・移動防火座談会
 - ・難聴者対象救急講習会
 - 6月・6町消防団幹部に対する水防訓練
 - ・防災パトロール(6町)
 - 7月・網野町監視員水上講習会
 - 8月・峰山中学校3名職場体験学習
 - ・防火訪問(一人暮らし老人宅の配線診断)
 - 10月・久美浜高校女子高生有志7名普通救命講習受講
 - 11月・近畿府県合同防災訓練参加
 - ・高齢者世帯防火訪問
 - ・網浜詰地区文化祭参加
 - ・危険物車両街頭検査実施
 - ・移動防火相談所
 - ・消防団との合同訓練
 - ・病院・福祉関係防火管理研修会
 - ・峰新町区消防フェア
 - ・心る里祭・やまつり祭・まるかじり祭・テキサス祭にて消防フェア開催
 - ・防火座談会
 - ・久美浜高校にて社会人との交流会
 - ・講師派遣
- この他に、昨年は消防署の見学会が30回、救急講習会が29回、防火教室が25回、消火器取扱い講習会が25回、起震車体験を12回行いました。

1月4日、峰山消防署で年頭の管理者点検を受けました。高齢化はじめさまざまな問題が山積する2000年を迎えるにあたり、気持ちを引き締め、更なる向上を心に誓いました。

▼ 小雨の降る中の管理者点検となりました



年頭の訓辞

(抜粋)

丹後広域消防組合 管理者 増田 桂一

消防費 増田 桂一

昨年から対応に追われた西暦二〇〇〇年問題も、機器など特に問題もなくひと安心といった所ですが、今年は「たつ」年ということで「旅発つ」「昇龍」といった意味あいで飛躍の年にしたいものです。消防組合も発足してから今年で一四年目を迎える中、消防を取り巻く社会情勢、住民の皆さんとの二一二是大きく変化しております。その中で、昨年は当組合の総合計画の策定、ポンプ車等の更新、二名の新規職員採用、広報紙「たんこの風」の発行と、事業の充実を図っているところです。

今後ますます複雑多様化する消防業務に対し、何よりも規律の保持と綱紀の肅正を図り、「安心」を支える消防を目指して、全職員一丸となつて精進してください。

今後ますます複雑多様化する消防業務に対し、何よりも規律の保持と綱紀の肅正を図り、「安心」を支える消防を目指して、全職員一丸となつて精進してください。

新人紹介

昨年四月から八ヶ月間の厳しい消防学校を卒業し、いよいよ十二月から現場配属となつた二ユヘ



山本 秀之
(峰山町)
「若さを生きか
のため頑張ります」



船越 昇
(網野町)
「峰山町のため頑張ります」

編集後記

■冬の初め、弥栄町堤老人会にお邪魔した時「火の用心」には誰よりも気を付けておられるが、火に焦がれた鍋のことをつい忘れない、焦がれた鍋のことをつい忘れない、「火になつた」というお話をうかがいました。これまで何十年といふ長い歳月中で、立派に我が家を火災から守り通してこられた皆さんが、その用心の工夫を、私たちはいつまでも示していきたいと思います。